

1. Society no longer needs the university as the primary place in which a nation's philosophy and culture is learned and absorbed by its citizens.

(宮崎大)

【語句リスト】

no longer:もはや～ない    primary:主要な、第一の    philosophy:哲学    absorb:～を吸収する  
citizen:国民

2. One of the world's premier concert pianists, Fleisher was talking about the after-effects of a day in 1965 when the career so carefully developed unexpectedly ended.

(東北大)

【語句リスト】

premier:最高の    Fleisher:フライシャー 電 人名    after-effects of A:Aの余波、Aの後どうなったのか  
career:(職業での)成功    develop:～を育てる、培う    unexpectedly:思いがけず

## 【解答&解説】

1.

### 【解説】

㊸は Society、㊹は needs、そして the university がOのSVO構文。as は後ろに名詞のみをとっているので「～として(は)」と訳す。

in which 以下の関係詞節は、直前の the primary place を先行詞としている。

関係詞節内の訳し方だが、直訳して

「ある国家の哲学や文化がその国民によって学ばれ、吸収される(主要な場所)」

と訳しても悪くはないのだが、よりこなれた日本語らしい訳を作るためには以下のようなルールを使うのだ。

いくら英語で受け身(～される)で書いてあっても、和訳の際にはできるだけ能動的(～する)に訳出した方がいいことが多い。

本問も、ここは能動的に「その国民が国家の哲学や文化を学び吸収する(主要な場所)」と訳した方が格段にいい訳になる。

### 【解答】

「社会はもはや大学を、国家の哲学や文化を国民が学び吸収する主要な場所として必要としていない」

2.

### 【解説】

まず冒頭の One と Fleisher が同格になっていることに気づいたか。㊸は Fleisher と見ればいいだろう。was talking が㊹。



## 課外授業

1. We were interested in the information, according to which there was some possibility to increase sales in the market.
2. New resource becomes useful matter which becomes waste which is then absorbed back into the ecosystem to become future raw material.

### 【語句リスト】

resource:資源

absorb:吸収する

raw material:原材料

waste:廃物

ecosystem:生態系

自動詞と他動詞の違いを、意味の上からもう少し深く考えてみましょう。  
(意味の上から考えると)他動詞とは、「S(主語)の行為が直接・全面的にO(目的語=他者)に及ぶ」ということ。逆に自動詞とは「S(主語)の行為が自分(=主語自身)にとどまる(=他者にまで及ばない)」ということなのです。

これをまず search(捜す) という動詞で考えてみましょう。

search には search A という(他動詞の)語法と、search for A という(自動詞の語法)があります。

The police searched the house. [他動詞]

という場合、「(警察が)捜す」という行為が、「その家」にまで(直接的・全面的に)及んだということになります。したがって「警察はその家を家宅搜索した」という意味になるのです。

これが search for A を用いて

The police searched for the house. [自動詞]

と言う場合、for という前置詞に阻(はば)まれ、「捜す」という行為が「その家」にまで(直接的・全面的には)及んでいないことになるのです。そこで (for は「～ に向かって」という方向・目的を表す前置詞なので)、「その家に向かって(を求めて)搜索を行った」、つまり「警察はその家を捜した」となるのです。

他の例を挙げると

① The policeman shot the criminal. [他動詞]

② The policeman shot at the criminal. [自動詞]

①の場合、「撃った(shot)」という行為が「その犯人」にまで(直接的・全面的に)及んだ。つまり「(銃であれば)弾が犯人に当たった」ことが予測できます。ところが②の場合、at(「～めがけて」という前置詞)が shot の後ろに割り込んでいるため、「犯人めがけて撃った」と言っているだけで、実際にその弾が当たったかどうかはわからないのです(当たっていないかもしれない。その後の文脈次第)。